

9. 飼料作物の系統適応性検定試験

1) イタリアンライグラス

草地飼料科：堀 誠・奥 透*：山下恒由**・緒方剛***

(*現畜産課・**現農業大学校・***現島原農業改良普及センター)

要 約

極短期利用型1系統2品種、短期利用型1系統2品種、長期利用型1系統2品種につき検討した結果、極短期利用型の山系29号は耐病性、耐倒伏性ともに強く、草丈も高く、特に年内刈りでは高い収量性を示した。短期利用型の山系30号は耐病性において標準品種（ニオウダチ）に劣るものの、耐倒伏性、再生が良好であり、生草収量、乾物収量も標準品種を上回った。高系22号は、耐病性、耐倒伏性共に標準品種並であったが、収量性では及ばなかった。

緒 言

公的機関による牧草類及び長大型飼料作物の品種育成事業の一環である系統適応性検定試験場所として国から委託を受け、イタリアンライグラスの新系統につき当地域での適応性を検定し、新品種作出の資料を得る。

試験方法

1. 試験期間 平成9年9月24日～平成10年6月16日
2. 試験場所及び土壌 長崎畜試場内（畑），
雲仙系火山灰土（壇壤土）
3. 供試系統及び品種
 - 1) 極短期利用型：山系29号，ミナミアオバ（標），
サクラワセ（比）
 - 2) 短期利用型：山系30号，ニオウダチ（標），
タチワセ（比）
 - 3) 長期利用型：高系22号，ヒタチヒカリ（標），
マンモスB（比）
4. 試験規模 1区6㎡ 4反復
5. 耕種概要
 - 1) 播種期 平成9年9月24日
 - 2) 播種量及び播種方法
200g/a，畦巾40cmの条播 但しサクラワセのみ
233g/a
 - 3) 施肥量（kg/a，成分量）
基肥 N：1.0 P₂O₅：1.5 K₂O：1.0
追肥（各刈取後） N：0.5 K₂O：0.5
土壤改良資材 堆肥：200 苦土石灰：10
重焼燐：2

結果及び考察

1. 一般経過概要

1) 気象概要

平均気温は9月，10月，11月上旬は平年より若干低く推移した。11月中旬以降4月まで平年を上回り，特に4月は平年より3.6度も高かった。降水量は10月に平年より大きく下回り，12月，2月，3月に若干平年を上回った。11月，1月は大きく上回った。日照時間は試験期間中9月下旬から10月中旬までは平年を若干上回ったものの10月下旬から4月中旬の期間は通して平年を下回った。

2) 生育概要

(1) 極短期利用型

発芽，初期生育ともに各系統（品種）ともにほぼ順調に推移し，年内刈を12月16日に実施した。春1番草は2月下旬から例年になく気温上昇で良好な生育をし，3月12日に刈り，高い収量性を示した。3番草は4月23日に行った。

(2) 短期利用型

発芽，初期生育共に各系統（品種）共にほぼ順調で年内刈りを12月9日に行った。その後，春1番草，2番草は天候にも恵まれ良好な生育を示し，3月9日，4月20日にそれぞれ刈り取りを行った。

(3) 長期利用型

発芽，初期生育各系統（品種）共にほぼ順調で年内刈りを12月9日に行った。その後，春1～4番草は天候にも恵まれ良好な生育を示し3月16日，5月1日，5月28日，6月16日にそれぞれ刈り取りを行った。しかしながら，生草収量，乾物収量いずれにお

いても標準品種を下回った。

2. 特性及び生育状況

1) 極短期利用型

生育の早晩は供試系統(品種)中最も早であった。草丈は年内及び春1番で最も高かったが茎数は春1, 2番草共に最も低かった。年内刈りにいもち病が幾らか見られたが, 耐倒伏性は標準品種(比較)並であった。

2) 短期利用型

生育の早晩は標準品種(比較)より早であった。草丈はやや低く, 茎数は春1, 2番草共に最も低かった。耐病性は春2, 3番草で標準品種(比較)並に冠サビ病が微発生したが, 再生が良く, 耐倒伏性も標準品種(比較)並で倒伏はなかった。

3) 長期利用型

発芽, 初期生育良好で草丈, 再生程度, 耐倒伏性いずれについても標準品種, 比較品種並で良好であった。乾物率は標準品種並であった。生草, 乾物収量とも比較品種を上回ったものの標準品種を下回った。

3. 収量性

1) 極短期利用型

生草収量が供試系統(品種)中最も低かったものの乾物率が高かったことから乾物収量は標準品種(比較)を上回った。

2) 短期利用型

生草収量, 乾物収量共に標準品種を上回った。

3) 長期利用型

表1 生育特性

項目	刈取時出穂程度 (無1~極多9)				倒伏程度 (無1~甚9)				病害虫程度 (極微1~甚9)				茎数 (本/㎡)		草丈(cm)					再生程度 (極不良1~極良9)							
	年内刈	春1	春2	春3	春4	年内刈	春1	春2	春3	春4	年内刈	春1	春2	春3	春4	春1	春2	年内刈	春1	春2	春3	年内刈	春1	春2	春3		
極短期	山系29号	2.0	4.0	7.0	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	2.0	1.0	1.0	-	-	927	977	80.4	101.4	90.5	-	-	8.0	6.5	-	-
	ミナミアオバ(標)	1.0	1.5	3.5	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	3.0	1.0	1.0	-	-	1037	981	75.6	98.5	85.9	-	-	7.5	7.0	-	-
	サクラワセ(比)	1.0	1.0	4.5	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	3.0	1.0	1.3	-	-	1010	1061	78.7	92.0	91.7	-	-	8.0	8.0	-	-
短期	山系30号	1.0	1.0	7.3	4.5	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	1.0	2.3	2.0	-	858	738	77.3	89.1	108.5	62.3	-	9.0	7.8	7.0	-
	ニオウダチ(標)	1.0	1.0	6.5	3.8	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	1.0	2.5	1.5	-	889	814	76.2	81.0	112.9	61.9	-	9.0	7.8	6.5	-
	タチワセ(比)	1.0	1.0	7.0	3.5	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	1.0	2.0	1.5	-	963	878	78.7	86.4	114.8	62.3	-	8.0	6.8	6.5	-
長期	高系22号	1.0	1.0	3.3	2.3	3.0	1.3	1.0	1.0	1.0	1.0	2.3	1.0	1.8	2.5	1.3	924	687	84.5	88.6	127.1	80.4	62.5	8.0	8.3	6.3	4.3
	ヒタチヒカリ(標)	1.0	1.0	1.5	4.0	4.0	1.8	1.0	1.0	1.0	1.0	2.8	1.0	2.0	2.3	1.0	748	726	84.0	86.7	129.7	88.5	67.6	9.0	8.8	7.3	5.0
	マンモスB(比)	1.0	1.0	3.5	3.5	2.3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	3.0	1.0	4.8	3.0	1.5	1073	746	78.8	96.7	116.2	79.2	62.6	8.3	7.0	6.3	4.0

表2 収量性

項目	生草収量 (kg/a)						乾物収量 (kg/a)							
	年内刈	春1	春2	春3	春4	計	年内刈	春1	春2	春3	春4	計	対標比(%)	
極短期	山系29号	429.0	432.0	200.3	-	-	1061.3	54.7	62.4	33.7	-	-	150.7	105.1
	ミナミアオバ(標)	402.8	460.0	227.8	-	-	1090.5	48.9	59.6	34.9	-	-	143.4	-
	サクラワセ(比)	377.3	427.0	272.3	-	-	1076.5	52.3	54.2	41.1	-	-	147.6	102.9
短期	山系30号	335.8	498.0	287.0	87.8	-	1208.5	45.4	61.1	44.6	11.7	-	162.7	101.0
	ニオウダチ(標)	345.3	411.8	301.0	90.3	-	1148.3	49.8	52.0	47.5	11.8	-	161.2	-
	タチワセ(比)	377.3	481.5	273.0	81.5	-	1213.3	49.2	67.1	45.3	12.0	-	173.5	107.6
長期	高系22号	453.3	494.0	429.3	190.5	116.0	1683.0	56.9	56.9	61.0	24.6	14.2	213.5	98.8
	ヒタチヒカリ(標)	444.3	502.5	461.5	228.8	137.0	1774.0	53.9	57.3	61.6	29.0	14.3	216.0	-
	マンモスB(比)	424.0	510.3	340.3	169.5	121.3	1565.3	54.5	63.4	50.0	23.8	12.9	204.6	94.7

生草, 乾物収量とも比較品種を上回ったものの標準品種を下回った。

2) ソルガム

草地飼料科：堀 誠・奥 透*

(* 現畜産課)

要 約

青刈型（ソルゴー型）2系統，2品種，兼用型3系統4品種につき検討した結果，青刈型では，中国交34号，39号共に生草，乾物収量で標準品種（F S 305）をかなり上回り有望と思われた。また，中国交39号は発芽，初期成育で優れていた。

兼用型では，全体的に発芽は良好であったが，発芽後の多雨により初期生育が不良であった。乾物収量は東山交23，24号が標準品種（スズホ）を上回り，有望と思われるが，穂重割合が若干低かった。東山交22号は晩生系統であり，当地域での2回刈りの兼用利用は無理と思われた。

緒 言

公的機関による牧草類及び長大型飼料作物の品種育成事業の一環である系統適応性検定試験場所として国からの委託を受け，ソルガムの新系統につき当地域での適応性を検定し，新品種作出の資料を得る。

試験方法

1. 試験期間 平成10年5月18日～10月2日
2. 試験場所及び土壌 長崎畜試場内（畑），雲仙系火山灰土（壇壤土）
3. 供試系統及び品種
 - 1) 青刈型（ソルゴー型）：中国交34号，中国交39号，FS305（標），NK326（比）
 - 2) 兼用型：東山交22号，東山交23号，東山交24号，スズホ（標），P956（比），FS5（比），KCS105（比）
4. 試験規模 1区9㎡ 3反復
5. 耕種概要
 - 1) 播種期 平成10年5月18日
 - 2) 播種量及び播種方法

青刈型：150g/a 畦巾75cmの条播

兼用型：畦巾75cm×株間10cmの3粒点播（1本仕立て）
 - 3) 施肥量（kg/a，成分量）

基肥	N：1.0	P ₂ O ₅ ：1.5	K ₂ O：1.0
追肥	生育初期	N：0.5	K ₂ O：0.5
	刈取後	N：0.7	K ₂ O：0.7
土壤改良資材	堆肥：200	苦土石灰：10	
	重焼燐：2		

結果及び考察

1. 一般経過概要

1) 気象概要

5月は，前半周期的に変化し後半は晴れの日が続いた。6月上中旬は周期的に変化したが，その後曇りや雨の日が多かった。7月は上旬に晴れの日が多かった。8月から9月上旬にかけて晴れの日が続き，9月下旬から10月上旬は周期的に変化した。

気温は生育期間を通して平年より1～2℃ほど高く推移し，特に5月は2℃以上高かった。

降水量は5月上中旬と6月は平年を大きく上回った。7月から10月上旬は平年を下回る降水量で，特に8月上旬から9月中旬にかけて，ほとんど降水が無い天候であった。

9月30日に台風9号が接近し，降水量は少なかったが風が強かった。

2) 生育概要

(1) 青刈型（ソルゴー型）

発芽は全系統（品種）ほぼ良好であった。しかしながら，初期生育は播種後の干ばつの影響もあり全体的に不良であった。その後，生育は回復し良好な生育をした。1番草は8月10日に刈り取りを行ったが熟期に差が大きかった。

2番草は1番草刈り取り後の干ばつにより生育がやや停滞した。また，9月30日の台風により倒伏が甚だしく，刈り取りを適期より大幅に早く実施した。

(2) 兼用型

発芽は全系統（品種）ほぼ良好であった。しかしながら，初期生育は播種後の干ばつの影響もあり全

体的に不良であった。その後、生育は回復し良好な生育をした。

1番草は8月10日に刈り取りを行ったが熟期に差が大きかった。2番草は1番草刈り取り後の干ばつにより生育がやや停滞した。また、9月30日の台風により倒伏が甚だしく、刈り取りを適期より大幅に早く実施した。

2. 供試系統の特性概要

1) 青刈型 (ソルゴー型)

(1) 中国交34号

発芽、初期生育は良くないものの、生草、乾物収量が標準品種を上回り有望と思われる。また、草丈が高く、耐倒伏性も良好で再生も優れている。

(2) 中国交39号

発芽、初期生育が良好であった。草丈は標準品種 (FS305) より高い。再生並びに耐倒伏性に優れ、乾物収量も対標比153.2%と供試系統 (品種) 中で最

も高く有望と思われる。

2) 兼用型

(1) 東山交22号

耐倒伏性が良好であったが、いずれの番草でも開花期さえ達しなかったため穂の割合も無く、収量性において標準品種をかなり下回った。

(2) 東山交23号

1番草の収量性は標準品種を上回り有望と思われたが、2番草での収量性はかなり低いものであった。そのために合計の収量性は標準品種並となった。

(3) 東山交24号

1番草の稈長は供試系統 (品種) 中で最も高く、長稈タイプであった。耐倒伏性は高く、乾物収量も対標比108.3%と高かったが、2番草は開花期に達せず、穂重割合も無かったことから2回刈用には不向きと思われた。

表1 生育特性

系統・品種	項目		刈取時生育ステージ		倒伏程度 青刈0~5 兼用型%		草丈 (cm)		稈長 (cm)		穂長 (cm)		再生芽	再生長		
	発芽	初期生育	1番	2番	1番	2番	1番	2番	1番	2番	1番	2番	多	少	良	否
	良否	良否														
青刈型	中国交34号	3.0	3.0	出穂初	出穂初	0	2	353	289	-	-	-	-	2.7	-	2.7
	中国交39号	1.0	1.3	糊熟中	乳熟中	1	2	301	267	-	-	-	-	2.7	-	2.7
	FS305(標)	1.0	3.7	糊熟初	乳熟初	1	5	275	260	-	-	-	-	3.0	-	3.0
	NK326(比)	2.3	3.7	出穂初	出穂初	0	5	304	240	-	-	-	-	3.0	-	3.0
兼用型	東山交22号	1.0	4.3	出穂初	伸長期	0	1	233	195	-	-	-	-	-	-	-
	東山交23号	1.0	2.7	開花期	出穂初	0	31	-	207	241	-	30	-	-	-	-
	東山交24号	1.0	3.0	出穂期	出穂初	0	23	-	263	278	-	24	-	-	-	-
	スズホ(標)	1.0	2.7	糊熟中	糊熟初	0	63	-	-	199	206	31	28	-	-	-
	P956(比)	2.3	5.0	糊熟初	乳熟後	0	37	-	-	224	206	30	26	-	-	-
	FS5(比)	1.0	4.3	乳熟中	開花期	0	30	-	-	246	218	29	24	-	-	-
KCS105(比)	1.0	5.0	伸長期	伸長期	0	27	308	239	-	-	-	-	-	-	-	

発芽良否、初期生育良否、再生長良否：良1~不良5 再生芽多少：多1~少5

表2 収量性

系統・品種	生草収量 (kg/a)			乾物収量 (kg/a)				乾物中の穂重割合 (%)			
	1番	2番	計	1番	2番	計	対標比%	1番	2番	総量平均	
青刈型	中国交34号	603	472	1075	142.5	87.4	229.9	132.7	-	-	-
	中国交39号	497	452	949	163.4	102.1	265.5	153.2	-	-	-
	FS305(標)	437	455	892	102.6	70.7	173.3	-	-	-	
	NK326(比)	752	563	1314	127.4	74.1	201.6	116.3	-	-	-
兼用型	東山交22号	452	361	813	71.6	51.5	123.1	65.5	0	0	0
	東山交23号	552	486	1038	107.9	81.6	189.5	100.8	6.3	2.5	4.4
	東山交24号	595	473	1068	118.6	84.8	203.4	108.3	5.0	0	2.5
	スズホ(標)	290	460	750	83.2	104.7	187.9	-	13.6	16.4	15.0
	P956(比)	314	322	636	79.0	70.9	149.9	79.7	16.5	16.7	16.6
	FS5(比)	549	530	1079	110.1	89.3	199.4	106.1	8.9	9.5	9.2
KCS105(比)	637	419	1056	98.1	62.6	160.8	85.5	0	0	0	

3) アルファルファ

草地飼料科 堀 誠, 奥 透*

(* 現畜産課)

要 約

愛系38~41号の4系統について検討した結果、耐倒伏性は愛系39号が強く、愛系40号が弱く、欠株率は愛系38号が低く、愛系39号が高かった。乾物収量は愛系38号を除いて、標準品種を上回り、愛系41号が最も高かった。

緒 言

公的機関の牧草及び長大型飼料作物の新品種育成事業の一環である系統適応性検定試験場所として国から委託を受け、アルファルファの新系統について当地域での適応性を検定し、新品種作出のための資料を得る。

試験方法

1. 試験期間

平成8年10月11日~平成10年11月19日

(調査期間:平成10年4月7日~平成10年11月19日)

2. 試験場所

長崎県畜産試験場畑(雲仙系火山灰土・埴壤土)

3. 供試系統・品種

愛系39~41号, タチワカバ(標準品種), ツユワカバ(比較品種)

4. 試験規模

1区6.0m²(2.0×3.0m), 4反復

5. 耕種概要

1) 播種期

平成8年10月11日

2) 播種量及び播種法

150g/a, 畦幅40cmの条播

3) 施肥量(kg/a)

基肥N:1.0, P₂O₅:3.0, K₂O:1.2追肥(1, 3, 5番草刈取後)N:0.3, K₂O:0.3

土壌改良資材 堆肥:200, 苦土石灰:27,

ようりん:6

4) 施肥方法

基肥:播種溝作条前に全面散布

追肥:刈取直後に畦際に施用

結果及び考察

1. 一般経過概要

1) 気象概要

平均気温は、全般的に平年より高く推移し、特に4, 5月は平年より2度以上も高かった。降水量は年間2,000mmを越え、1, 2, 5, 6, 10月は平年を上回り、

特に6月は平年を大きく上回った。日照時間は7月以降平年並みか、それ以上であったが、1月~6月は平年を下回り、年間でも平年を下回った。

2) 生育概要

夏季の高温時に幾らか生理障害が見られたものの、生育は比較的良好であった。天候にも恵まれ、11月19日の晩秋まで刈り取りが実施できた。また、病虫害の被害は見られなかった。

2. 生育特性及び収量性

(1) 愛系38号

倒伏にやや弱く、草丈も低いが、欠株率は最も低い。生草、総乾物収量共標準品種を上回り秋の収量が特に高い。

(2) 愛系39号

倒伏に強いが、欠株率が高く、生草、乾物収量共に供試系統(品種)中最も低かった。

(3) 愛系40号

倒伏にやや弱く、欠株率もやや高い。再生草勢は良く、生草、乾物収量共に標準品種を上回っている。

(4) 愛系41号

草丈が高く、倒伏にも比較的強い。欠株も少なく、生草、乾物収量共に1番高い。特に早い番草で高収量である。

表1 生育特性

品種	項目	草丈 (cm)							草高 (cm)			倒伏程度		欠株率		再生草勢		
		1番	2番	3番	4番	5番	6番	晩秋	1番	2番	3番	3番	4番	1番	最終	1番	盛夏	
		4/7	5/13	6/4	7/14	8/26	10/19	11/19										
愛系38号		53.4	103.7	58.6	53.4	48.2	52.2	45.7	42.5	32.4	53.1	3.3	1.0	0.0	1.2	7.3	5.5	
愛系39号		57.0	102.5	63.4	54.2	47.7	53.3	43.2	46.6	34.7	57.5	2.5	1.0	2.1	3.5	6.5	5.0	
愛系40号		57.9	104.5	65.0	54.6	50.4	54.6	47.2	47.8	34.2	51.7	5.8	1.0	1.3	3.1	8.3	6.3	
愛系41号		62.5	106.4	63.4	56.8	50.1	54.5	45.8	49.7	36.7	57.7	2.8	1.0	1.0	2.7	7.5	5.5	
タチワカバ (標)		57.9	108.3	64.6	56.6	51.9	55.2	44.1	46.6	33.4	53.3	3.5	1.0	1.3	3.6	8.0	6.3	
ツユワカバ (比)		60.3	104.8	64.0	57.6	50.8	54.9	47.9	45.9	35.0	50.0	4.5	1.0	0.4	2.1	7.8	5.5	

倒伏程度：無又は極微1～甚9，再生草勢：極不良1～極良9

表2 収量性

品種	項目	生草収量 (kg/a)							合計	乾物収量 (kg/a)							合計	対標比 (%)
		1番	2番	3番	4番	5番	6番	晩秋		1番	2番	3番	4番	5番	6番	晩秋		
愛系38号		266.0	353.1	174.1	103.7	101.9	134.1	116.1	1249.1	44.0	52.2	25.3	28.6	29.4	30.3	18.0	227.8	102.7
愛系39号		279.5	340.3	164.9	100.8	90.6	123.5	84.3	1184.0	45.3	48.3	24.7	27.6	25.8	28.5	13.4	213.5	96.3
愛系40号		294.6	370.3	184.7	107.8	105.8	128.2	100.8	1292.3	46.9	49.9	24.9	29.5	31.1	29.9	16.0	228.2	102.9
愛系41号		328.1	385.1	187.6	114.0	96.6	127.1	88.9	1327.5	52.5	55.0	27.7	31.2	27.7	28.8	14.2	237.1	106.9
タチワカバ (標)		258.9	354.6	175.6	102.9	100.1	121.0	94.6	1207.7	42.1	52.0	25.6	29.0	29.2	29.2	14.8	221.8	-
ツユワカバ (比)		319.3	367.4	189.9	103.3	109.0	133.8	112.5	1335.3	50.8	50.9	27.7	29.0	31.9	30.7	17.7	238.7	107.6

4) ギニアグラス

草地飼料科：堀 誠・奥 透*

(*現畜産課)

要 約

気象は周期的に変わり、生育初期は多雨で2番草以降は少雨の年であった。発芽、初期草勢は良好で、3回の刈り取りを実施した。乾物収量は標準品種を上回る系統はなく、九州7号が比較品種を上回り、供試系統中では最も多収で有望と思われた。

緒 言

公的機関の牧草及び長大型飼料作物の新品種育成事業の一環である系統適応性検定試験場所として国から委託を受け、ギニアグラスの新系統について当地域での適応性を検定し、新品種作出のための資料を得る。

試験方法

1. 試験期間

平成10年4月27日～平成10年9月11日

2. 試験場所及び土壌

長崎畜試場内(畑)、雲仙系火山灰土(埴壤土)

3. 供試系統及び品種

九州6号、九州7号、九州8号、ナツカゼ(標)、ガットン(比)

4. 試験規模

1区6㎡(2.5㎡×2.4m)4反復

5. 耕種概要

1) 播種期 平成10年4月27日

2) 播種量及び播種方法

100g/a、畦巾50cmの条播 但しガットンのみ
350g/a

3) 施肥量(kg/a, 成分量)

基肥 N:1.0 P₂O₅:1.5 K₂O:1.0

追肥(各刈取後) N:0.5 K₂O:0.5

土壌改良資材 堆肥:200 苦土石灰:10

炭酸苦土重焼燐:6

結果及び考察

1. 一般経過概要

1) 気象概要

平均気温は、試験期間を通して平年を上回りに5月は2℃以上も高かった。降水量は5、6月は平年値をかなり上回り、7～9月は平年値をかなり下回る年であった。日照時間は7、8月を除いて平年を下回ったが、試験期間全体では平年並みであった。

2) 生育概要

発芽、初期生育は各系統(品種)ともに良好で、2番草以降も天候に恵まれ、3回の刈り取りを実施した。

2. 生育特性及び収量性

1) 九州6号

発芽、初期草勢は系統中一番悪かったが、再生程度は一番良かった。茎数も多く、草丈、生草収量は一番低かったものの乾物率がよく、乾物収量は標準品種(比較)より低かったが供試系統では中庸であった。

2) 九州7号

発芽、初期草勢は系統中一番良かったが、再生程度は逆に一番悪かった。茎数は少なく、草丈は中庸であった。1番草と盛夏期に倒伏が他系統(品種)より甚であった。収量性は生草、乾物収量共に標準品種を下回ったが、比較品種より高かった。供試系統では一番高かった。

3) 九州8号

初期草勢、再生共に供試系統中で中庸であった。草丈は系統中一番高く、耐倒伏性も良好であった。収量性では、標準品種(比較)より低く、供試系統でも乾物収量は最低であった。

表1 初期草勢及び刈り取り時の生育状況

項目 系統・品種	発芽 良否	初期 草勢	再生程度		茎数 (本/㎡)	刈取時出穂程度 (無1～極多9)			倒伏程度 (無1～甚9)		
			1番	2番		1番	2番	3番	1番	2番	3番
九州6号	7.0	6.0	8.3	7.8	763.1	1.5	3.0	5.8	1.0	2.0	2.0
九州7号	8.5	7.3	6.8	6.8	565.8	1.8	3.8	7.5	2.3	3.8	2.0
九州8号	7.0	6.8	8.5	7.3	619.7	1.0	2.0	4.3	1.0	1.5	2.0
ナツカゼ(標)	8.5	9.0	7.0	7.5	351.1	1.0	1.0	2.0	1.8	1.5	1.0
ガットン(比)	8.0	6.5	7.5	7.8	724.2	1.0	2.0	3.5	1.0	1.8	2.0

発芽良否, 初期草勢, 再生程度: 極不良1～極良9

表2 生育状況及び収量性

項目 系統・品種	草丈 (cm)			生草収量 (kg/a)				乾物収量 (kg/a)				対標比(%)
	1番	2番	3番	1番	2番	3番	合計	1番	2番	3番	合計	
九州6号	114.5	126.2	144.9	270.0	341.2	225.5	836.7	46.1	62.6	50.8	159.5	82.6
九州7号	118.9	128.2	167.9	339.8	336.7	262.1	938.5	55.2	61.0	61.7	177.9	92.1
九州8号	123.5	142.9	154.9	264.7	343.4	243.9	851.9	42.2	61.9	52.2	156.3	80.9
ナツカゼ(標)	139.6	168.0	160.2	477.6	476.1	317.8	1271.6	66.0	68.1	59.1	193.2	-
ガットン(比)	115.6	135.7	157.0	300.5	335.9	246.3	882.7	48.1	62.4	55.0	165.5	85.7